

確かな未来ミーティング～男女共同参画を考えよう～
ワークショップ概要

日時：平成 28 年 11 月 18 日（金）

19 時 00 分～21 時 00 分

場所：ローズWAM 5 階 501・502 号室

- ・ 田川市民文化部長のあいさつ
- ・ 藤井男女共生センターローズWAM所長からそれぞれの課題の現状について説明
- ・ 司会進行役の大和人権・男女共生課参事からワークショップのルールなどを説明



《各班で自己紹介の時間》最近、頑張ったことや嬉しかったこと

《各班の話し合いのテーマが決定》

A班：男女共生センターローズWAMの今後のあり方について

B班：DVについて

C班：L G B Tについて

D班：男性の育児について

E班：女性の労働力率（M字カーブ）について

《ワークショップ開始》

19：30 個人で課題は何かを考える

19：33 班ごとに課題についてお互いの意見をきく

19：48 個人で解決について考える

19：51 班ごとにお互いの意見交換

20：06 発表の準備（模造紙に課題、解決方法を記載）

20：26 各班 5 分以内での発表

C班→D班→B班→E班→A班

その都度、1 分間で大和参事からの感想

《各班の発表内容》

C班：LGBTについて



課題：(心理面) 認知度が低く、なにが問題かわからない、少数派を受け入れる慣習がない、接点が少なくどのように接したらよいかわからない
(設備) おふろ、トイレ、着替え、女性専用車両などの問題
(教育・啓発) 子どもたちへの教育ができていない、保護者会などへの啓発がいる
(その他) 聞いたときオドロク、これが問題かも。インターネット、テレビ、まんがなどの情報に左右されやすい。自分の意見が持ちにくいのでは。

解決

【共通】・現状を知る

- ・コミュニティをつくる

【市民】・おどろかない

- ・偏見をもたない、差別をつくらない
- ・いろんなことで男女に分けない

【企業】・施設整備

- ・啓発活動
- ・書類の改善、男女の項目をなくす
- ・お風呂は水着タイム、裸タイムをつくる
- ・CMやメディアで情報を発信する、芸人によって認知度があがる
- ・特別視しない
- ・男性用化粧品の充実
- ・巻きスカートなどファッションの受け入れ

【行政】・小学校の授業で取り入れる

- ・パートナーシップ法などの法整備、条例制定
- ・書類の改善
- ・トイレや着替え場所の整備
- ・当事者の話を聞く機会をつくる

感想：先日、大阪でレインボーフェスタがあり行ってきたが、たくさんの人が集まっていました。LGBTへの関心が高まっているようです。おふろの時間帯を分けるなどお

もしろいアイデアが出ていました。

D班：男性の育児について



- 課題**
- ・ 育児が女性任せになっている
 - ・ 長時間労働のため育児に参加できない、
 - ・ 有休がとりにくい
 - ・ 男性が働きやすい職場づくりがされても現実問題として育児のために仕事を休むことは難しい
 - ・ 男性が育児することに否定的な社会
 - ・ 育児に関する知識不足
 - ・ 不慣れな男性が育児をすると女性から文句がでる場合がある

解決

- 【市民】**
- ・ 日々の生活を計画的に楽しく行う
 - ・ 育児について男性とよく話しあう
 - ・ 男性も参加する機会を増やして、自己啓発する
 - ・ 子どもをよく観察して問題をクリアにする
 - ・ 家族同一の趣味をもつ
- 【企業】**
- ・ 休みのとれる環境整備
 - ・ 育児中の従業員の労働時間を考慮する
 - ・ 直属の上司が率先して帰宅し、部下が帰りやすい雰囲気づくりをする
 - ・ 社内での推進状況をネットや紙面で内部・外部に発信する（わが社のイクメン）
 - ・ 女性参画システムをつくる
- 【行政】**
- ・ 男性が育児を行うことを後押しするような啓発をする
 - ・ 行政のトップが積極的に育児に協力してアピールする
 - ・ 男性の育児・家事の啓発
 - ・ 市民で育児・家事に参加している男性を今月のイクメンとして紹介する
 - ・ 男性が育児に参加するために必要な知識を提供する機会をつくる
 - ・ 女性も研修して能力UPをはかる

感想：男性の育児参加はまだまだ日本は進んでいないが、北欧では当たり前のことになっており、男性も有給で育児休業をとれるようになっている。上司が育休をとりやすい環境をつくる、イクメンを手助けするボス「イクボス」も出ていました。「イクメン自慢」もよいアイデアだと思います。

B班：DVについて



- 課題**
- ・暴力の定義があいまい。
 - ・他人事のようで意外と自分事。
 - ・外にわかりにくい（近くに頼れる人がいない、逃げ切れない、その人から離れる勇気がもてない）
 - ・暴力は許されない、でも、やってしまう。
 - ・心の余裕がない（男性のほうが暴力に対して許容度が高い。男尊女卑の思想。女性は男性に対して強くなれない。男性のほうが力で解決しようとする。）
 - ・お金の余裕がない（女性の経済的自立）
 - ・相手への信頼・尊敬の欠如。

解決

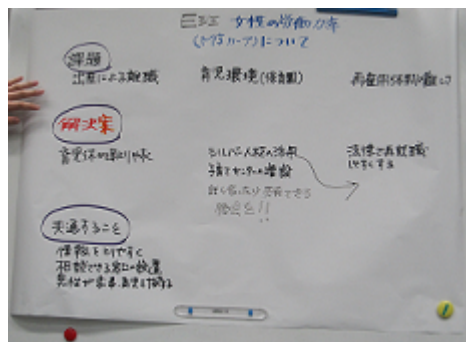
- 【市民】・困っている相手によりそう、つなげる
 - ・相手を尊敬する（同じことを一緒にする、同じものを見たりする）
 - ・相手への思いやり
- 【学校】・デートDVについて授業の中でとりあげる
 - ・学校教育はもれおちなく全員にできるのでDVに対する教育をする
- 【行政】・相談できる場所や連絡先を書いたカードを公共の場のトイレやスーパーのレジ袋詰め場所に置く
 - ・社会全体が声をあげやすい環境をつくる
 - ・逃げてきた人の受け入れ（シェルター、かけこみ寺）
 - ・意識調査結果からの対策、施策

【メディア】

- ・テレビのCM、ドラマによる啓発
- ・議論をする機会をもつ

感想：どこまでがDVかを決められたものもあるが、大切なのはパートナー間で話し合っ
て決める。「殴る・ける」だけでなく「無視する」と言うものもある。そういうことを
お互い話し合うという話が出ていました。女性が利用する場所にカードを置くという
のもよいアイデアだと思います。また、若い人たちのデートDVについての教育が課
題になってきています。

E班：女性の労働力率（M字カーブ）について

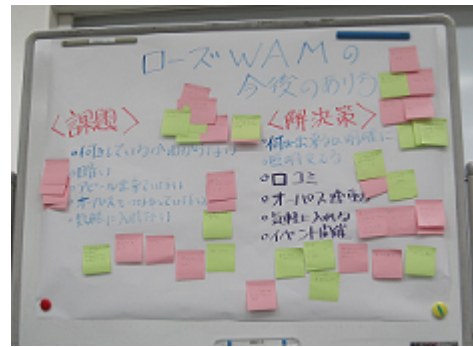


- 課題：**
- ①出産による離職
 - ②育児環境（保育園）
 - ③再雇用体制の難しさ

- 解決：**
- ①育児休暇をとりやすくする、取得期間を自由に選べたらよい
 - ②子育てセンターの増設、育児と仕事の両立について話し合ったり共有できる機会をもつ、子育てしながらでも働ける環境をつくる
 - ③法律で再就職しやすくする
シルバー人材センターの活用
(共通) 市民が情報をとりやすくする
相談できる窓口の設置
男性が育児・家事を協力する

感想：M字カーブは、実は社会全体の問題です。M字カーブのない国もある。新聞のクリッピング記事を見ていたが、在宅でパソコンを使って仕事をするという国がたくさんあるようです。情報共有のためにネットを使う。いろいろと深いところまで考えていただきました。

A班：男女共生センターローズWAMの今後のあり方について



- 課題**
- ・何をしているところかよくわからない
 - ・照明が暗い
 - ・アピールできていない
 - ・オーパス（市の施設の予約システム）とつながっていない
 - ・気軽に入れない（特に男性だけでは入りにくい）

- 解決**
- ・広報やホームページで何ができるか明確にする
 - ・自動ドアのところの入り口の照明を変える
 - ・ロコミで広がるように
 - ・オーパスと連動させて気軽にご利用できるようにする
 - ・気軽に入れるイベントを開催する
 - ・イベントの掲示を街を歩いている人に向けてする
 - ・いばらきフェスティバルのときなどに小さい子向けに開放したらどうか

感想：ローズWAMが開所して17年目ですが、こんな熱心に市政のことを考えてくださっているみなさんの中でも、まだ利用されたことがないかたがおられるようです。施設に来てもらうことによって、男女共同参画がチラッと醸し出されることが大事なかなと思います。

・大神人権・男女共生課長のあいさつ

金曜の夜の大変お忙しい時間帯に、集まって熱心に議論していただき、ありがとうございました。今年度は、市の男女共同参画計画の見直しをしているところで、年明けにはパブリックコメントを募集いたします。今後とも男女共同参画をはじめ市政の推進にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。